

特別顧問・特別参与が従事した職務の遂行に係る情報（事後公表）

【担当課：政策企画室広報担当】

議 題	大阪市の広報について（改善に向けた検討状況報告）
日 時	平成30年5月21日（月曜）13時30分～16時30分
場 所	大阪市役所本庁舎5階 秘書担当会議室
出 席 者	(特別顧問・特別参与)： 清水特別参与・山本特別参与 (職員等)： 政策企画室（政策企画室長・市民情報部長・広報担当課長・外5名）
論 点	・ 大阪市の各種広報媒体及び広報手法について
主 な 意 見	<ul style="list-style-type: none"> ・ フォーマットカラーの色分けについておかしいと思うものはない。ただ、色分けありきの広報になってはいけない。7月から試行的に始めていくのは問題ないが、システム化は市民の方がどう受け取るかも勘案して時間をかけて合意形成していくべき。媒体によって、実際に入る写真、文字、見る環境も含めた中で情報がどう届くのか、そこを精査したうえで運用のあり方を開発していく必要がある。フォーマットについては、あくまでも情報が主役。伝えたい情報をサポートするためのものなので、柔軟に考えていけばよい。 ・ デジタルサイネージでのロゴ使用については、伝えたいことが市政情報ということであれば、大阪市政とするのがよい。ロゴとフォーマットは干渉しないので、使用に問題はない。サイネージにはロゴはいいが、ユーチューブ動画でのロゴは冒頭にあるより最後に入れるほうがよい。 ・ 映像作成について業者委託をしているということだが、価格競争だけではクオリティの確保が難しい。本気で動画を作りたいならプロポーザルで確認する方がよい。選定の前にどういう形で進めればよいか相談してもらえるとアドバイスも可能。 ・ 広報紙の新しいタイトルデザインについては、ベタ塗りに白文字抜きの方が目を引く。手書き風の文字は温かみが出るのでそれでデザインしたものをあらためて見たい。 ・ 新しい広報の企画について、若い人といっても住んでいる世界がそれぞれ異なるので、ターゲットを明確にし、伝えていくテーマを整理していく必要がある。20代でも学生と社会人では必要とする情報が変わる。一気に全てというのは無理なので、ターゲットを絞るべき。 ・ 困ったときに使える市役所といったテーマで動画なり冊子なりを作れば若い人たちは検索してたどり着く。若い人向けに自分に関わるような具体的な場面こういうときに助けてくれるというのが見えないと見てもらえない。そういう入り口をたくさん作って見てもらうことが必要。 ・ 調査の過程で、どんな若者をターゲットにというのが見えてくると思うので、そこで絞ればよい。調査には必ずどんなことに困っているというのは

	<p>入れてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学と連携して、ターゲット予備軍となる大学生に市役所をどう使っていくかというのを考えてもらうのもよいと思う。テーマを設けて公募してはどうか。
結 論	<ul style="list-style-type: none"> 本日の助言を踏まえ、各種広報媒体の見直し及び新たな広報企画等の検討を進める。
説明等資料	
備 考	
関係所属 (部 課)	政策企画室市民情報部広報担当